

2026 年度

モジュール制専攻言語科目履修上の注意

「専攻言語」としての履修について、

- ・言語文化学部の学生は、学部を卒業するまでに少なくとも 28 単位以上を履修することが必要です。
- ・国際社会学部の学生は、学部を卒業するまでに少なくとも 20 単位以上を履修することが必要です。
- ・言語文化学部、国際社会学部ともに、第 2 年次末までに少なくとも 15 単位以上履修できていないと 3 年次に進級できません。
- ・モジュール制の専攻言語科目の特徴は、一つの授業が 1 セメスター (= 1 単位) で完結すること、すべての授業がカテゴリーと水準によって分類され、受講生の語学水準、進度、学部での全体の学習計画に応じて選択的に履修できることにあります。
- ・モジュール制の各専攻言語科目を履修するにあたっては以下のことに留意してください。

「諸地域言語」としての履修についても、以下に説明されていますので、指示に従ってください。

目 次

1. ポーランド語	1
2. チェコ語	4
3. ウズベク語	7
4. モンゴル語	9
5. インドネシア語	13
6. マレーシア語	16
7. フィリピン語	18
8. タイ語	21
9. ラオス語	27
10. ベトナム語	29
11. カンボジア語	31
12. ビルマ語	32
13. ヒンディー語	34
14. ウルドゥー語	38
15. ベンガル語	40
16. ペルシア語	43
17. トルコ語	45

ポーランド語

モジュールコードの説明

世界教養プログラムの科目名称「ポーランド語 I-1, 2, 3…」は原則として年度によって変わりませんが、モジュールコードは年度に応じて異なります。

モジュールコードは、授業のカテゴリーとレベルなどを表す記号から成り立っています。

Sは「世界教養プログラム」において開講されていることを表します。

PLはポーランド語を意味します。

次の2桁は年度を表し、たとえば2026年度は26に、2030年度は30になります。

年度の次には1または2が挿入され、それぞれ春学期の授業、秋学期の授業を表しています。

開講学期を示す数字の次には以下のカテゴリーを示す1文字のアルファベットがきます。

- G 文法
- C コミュニケーション
- S プレゼンテーション
- W 作文
- H 聴解
- R 読解
- T 翻訳
- V 語彙構築
- B 基礎

カテゴリーの次にくる1～6の数字はその授業のレベルを示しています。学年とは無関係です。

最後から2番目のアルファベットは、その授業が他の授業と連動しているかどうかを表し、Xであれば独立した授業ですが、AとBはAの授業とBの授業が連動しているため、同時に履修しなければなりません。

モジュールコードの最後がRになっている科目は、授業のコンテンツが毎回異なり、繰り返して履修できる反復履修可能科目であり、モジュールコードがXで終わっている授業は一度しか履修できません。

- * 1年生用に特化して開講されている授業はすべて反復履修できない、かつ必修の授業ですので注意してください。それらの単位を修得できなかった人は、その科目を再履修して下さい。
- * 同じカテゴリーの科目は、留学してレベルが上がった場合などを除き、原則として、レベルをとばして履修できません。たとえば、「文法2」の単位を修得していなければ、「文法3」を履修することはできません。留学から帰って「飛び級」をする時は、受講したい授業の先生と相談して予め必要レベルのテストを受けるか、留学先で発行された成績表、ポーランド語検定試験の合格証明書を提示するなどしてください。

専攻言語としての履修

1 年生

(1) 春学期には、次の 5 コマを履修して下さい。**すべて必修**です。

科目名	授業題目名	モジュールコード	担当教員名
専攻言語 (ポーランド語 I-1)	文法 1 A	SPL261G1AX	森田 耕司
専攻言語 (ポーランド語 I-2)	文法 1 B	SPL261G1BX	森田 耕司
専攻言語 (ポーランド語 I-3)	コミュニケーション 1	SPL261G1XX	チャプレフスカ ソニヤ
専攻言語 (ポーランド語 I-4)	プレゼンテーション 1	SPL261S1XX	チャプレフスカ ソニヤ
専攻言語 (ポーランド語 I-5)	作文 1	SPL261W1XX	ジャブコ・ポトポヴィツ チ クシトフ

(2) 秋学期には、次の 5 コマを履修して下さい。**すべて必修**です。

科目名	授業題目名	モジュールコード	担当教員名
専攻言語 (ポーランド語 I-6)	作文 2	SPL262W2XX	ジャブコ・ポトポヴィツ チ クシトフ
専攻言語 (ポーランド語 I-7)	文法 2 A	SPL262G2AX	森田 耕司
専攻言語 (ポーランド語 I-8)	文法 2 B	SPL262G2BX	森田 耕司
専攻言語 (ポーランド語 I-9)	コミュニケーション 2	SPL262C2XX	チャプレフスカ ソニヤ
専攻言語 (ポーランド語 I-10)	プレゼンテーション 2	SPL262S2XX	チャプレフスカ ソニヤ

2 年生

(1) 春学期には、次の中から選択して履修して下さい。

科目名	授業題目名	モジュールコード	担当教員名
専攻言語 (ポーランド語 II-1)	文法 3	SPL261G3XX	ブシビルスカ オルガ
専攻言語 (ポーランド語 II-2)	コミュニケーション 3	SPL261C3XX	チャプレフスカ ソニヤ
専攻言語 (ポーランド語 II-3)	プレゼンテーション 3	SPL261S3XX	チャプレフスカ ソニヤ
専攻言語 (ポーランド語 II-4)	作文 3	SPL261W3XX	川本 夢子
専攻言語 (ポーランド語 II-5)	聴解 1	SPL261H1XX	チャプレフスカ ソニヤ

(2) 秋学期には、次の中から選択して履修して下さい。

科目名	授業題目名	モジュールコード	担当教員名
専攻言語 (ポーランド語 II-6)	コミュニケーション 4	SPL262C4XX	チャプレフスカ ソニヤ
専攻言語 (ポーランド語 II-7)	プレゼンテーション 4	SPL262S4XX	チャプレフスカ ソニヤ
専攻言語 (ポーランド語 II-8)	作文 4	SPL262W4XX	川本 夢子

2019 年度以降入学者用

専攻言語（ポーランド語Ⅱ-9）	読解 1	SPL262R1XX	プシビルスカ オルガ
専攻言語（ポーランド語Ⅱ-10）	語彙構築	SPL262V1XX	森田 耕司

すでにポーランド語を学習したことがある、あるいは家庭でポーランド語を使用しているといったような人、また短期留学などで語学力が向上した人は、上記の授業に加えて（あるいは替えて）下記の授業も履修することが可能です。そういう場合はポーランド語代表教員と早めに相談してください。

一般的には下記の科目は3年次以上の人や科目等履修生を対象に開講される専攻言語（ポーランド語Ⅲ）の授業です。

春学期

コミュニケーション5（SPL261C5XR）	[チャプレフスカ ソニヤ]
コミュニケーション6（SPL261C6XR）	[チャプレフスカ ソニヤ]
翻訳1（SPL261T1XR）	[森田 耕司]
読解2（SPL261R2XR）	[プシビルスカ オルガ]
読解3（SPL261R3XR）	[久山 宏一]

秋学期

コミュニケーション5（SPL262C5XR）	[ジャブコ・ポトポヴィッチ クシトフ]
作文5（SPL262W5XR）	[チャプレフスカ ソニヤ]
作文6（SPL262W6XR）	[チャプレフスカ ソニヤ]
聴解2（SPL262H2XR）	[チャプレフスカ ソニヤ]
翻訳2（SPL262T2XR）	[川本 夢子]
読解3（SPL262R3XR）	[プシビルスカ オルガ]
読解4（SPL262R4XR）	[久山 宏一]

諸地域言語としての履修

初めてポーランド語を学ぶ人は、必ず下記の「ポーランド語基礎1（SPL261B1XX）」から始めてください。まったくの初学者でない場合は、「諸地域言語と共通」として開講されている「専攻言語」の授業の中から自由に選んで履修できますが、その授業がどのような内容とレベルのものであるか、必ず事前にポーランド語代表教員に問い合わせ、相談してください。

専攻言語とは別に、特に諸地域言語として開設されるのは次の授業です。

諸地域言語（ポーランド語1）	ポーランド語基礎1（SPL261B1XX）	[福嶋 千穂]
諸地域言語（ポーランド語2）	ポーランド語基礎2（SPL262B2XX）	[福嶋 千穂]

チェコ語

I. 1年次学生

(1) 春学期には、下記の5コマを履修してください。

チェコ語 I-1 (SCZ261G1AX)

チェコ語 I-2 (SCZ261G1BX)

チェコ語 I-3 (SCZ261C1AX)

チェコ語 I-4 (SCZ261C1BX)

チェコ語 I-5 (SCZ261H1XX)

(2) 上記の5単位が取得できた学生は、秋学期には次の5コマを履修してください。

チェコ語 I-6 (SCZ262G2AX)

チェコ語 I-7 (SCZ262G2BX)

チェコ語 I-8 (SCZ262C2AX)

チェコ語 I-9 (SCZ262C2BX)

チェコ語 I-10 (SCZ262H2XX)

II. 2年次学生 (チェコ語 I-1~10の単位を取得した学生)

(1) 春学期には、基本的に以下の授業を履修してください。

チェコ語 II-1 (SCZ261G3AX)

チェコ語 II-2 (SCZ261G3BX)

チェコ語 II-3 (SCZ261C3AX)

チェコ語 II-4 (SCZ261C3BX)

チェコ語 II-5 (SCZ261H3XX)

(2) 上記の5単位が取得できた学生は、秋学期には基本的に以下の授業を履修してください。

チェコ語 II-6 (SCZ262R1AX)

チェコ語 II-7 (SCZ262R1BX)

チェコ語 II-8 (SCZ262C4AX)

チェコ語 II-9 (SCZ262C4BX)

チェコ語 II-10 (SCZ262H4XX)

- (3) 3 年次への進級要件は 15 単位です。文法 1～3、および読解 1 の単位を取得できなかった場合は、1 学期遅れで以下の授業が用意されています。

チェコ語 I - 1 (秋学期開講 : SCZ262G1XX)

チェコ語 I - 6 (春学期開講 : SCZ261G2XX)

チェコ語 II - 1 (秋学期開講 : SCZ262G3XX)

チェコ語 II - 6 (春学期開講 : SCZ261R1XX)

Ⅲ. 3 年次学生 (チェコ語 I 1～10 およびチェコ語 II 1～10 の単位が取得できた学生)

- (1) 春学期には以下の授業を履修してください。

チェコ語Ⅲ - 2 (SCZ261C5XR)

- (2) 秋学期には以下の授業を履修してください。

チェコ語Ⅲ - 4 (SCZ262C6XR)

- (3) 上記の授業を 4 年次に履修したい人は、担当講師と相談の上履修してください。以上に加えて、チェコ語Ⅲ - 1, チェコ語Ⅲ - 3, チェコ語Ⅲ - 5, チェコ語Ⅲ - 7 (すべて読解 2) が開講されています。読解 2 はリピート可能ですから、よく計画して卒業に必要な単位を取得してください。

Ⅳ. 4 年次学生

- (1) 春学期には以下の授業を履修してください。

チェコ語Ⅲ - 6 (SCZ261C7XR)

- (2) 秋学期には以下の授業を履修してください。

チェコ語Ⅲ - 8 (SCZ262C8XR)

- (3) 上記の授業を 3 年次に履修したい人は、担当講師と相談の上履修してください。以上に加えて、チェコ語Ⅲ - 1, チェコ語Ⅲ - 3, チェコ語Ⅲ - 5, チェコ語Ⅲ - 7 (すべて読解 2) が開講されています。読解 2 はリピート可能ですから、よく計画して卒業に必要な単位を取得してください。

諸地域言語としての履修

- (1) 初めてチェコ語を学ぶ学生は、秋学期（木・3）の「文法Ⅰ」から履修できます。
- (2) 『授業科目概要』の各授業の内容をよく読み、担当講師と相談の上、履修する授業を決定してください。

ウズベク語

専攻言語としての履修（ロシア語及びウズベク語／中央アジア地域）

春学期・秋学期に開講される授業を科目名の番号順に履修してください。詳細は授業時に指示します。

諸地域言語としての履修

- (1) 初めてウズベク語を学ぶ学生は、以下の授業を履修してください。この授業は、他専攻の学生のみを対象としたもので、中央アジア地域（ロシア語及びウズベク語）の学生は履修することができません。春学期と秋学期を通じ、1年間をかけてウズベク語の基礎的な文法を学習します。

科目名	授業題目名	教員名	学期・曜日・時限
諸地域言語（ウズベク語 1）	ウズベク語初級 1	河原 弥生	春 火・4
諸地域言語（ウズベク語 2）	ウズベク語初級 2	河原 弥生	秋 火・5

- (2) 原則として上記の二つの授業を受講した学生のみが、以下の読解の授業を履修することができます。

科目名	授業題目名	教員名	学期・曜日・時限
諸地域言語（ウズベク語 1）	ウズベク語読解 A1	島田 志津夫	春 木・2
諸地域言語（ウズベク語 2）	ウズベク語読解 A2	島田 志津夫	秋 木・2
諸地域言語（ウズベク語 1）	ウズベク語読解 B1	木村 暁	春 火・1
諸地域言語（ウズベク語 2）	ウズベク語読解 B2	木村 暁	秋 火・1

- (3) ネイティブ講師による以下の会話の授業は、(1)の文法の授業を前年度以前に受講済みの者のみが履修できます。ウズベク語文法の知識のない学生は、原則として会話の授業のみを履修することはできません。

科目名	授業題目名	教員名	学期・曜日・時限
諸地域言語（ウズベク語 1）	ウズベク語会話 IA	ʔɪŋɡʌ ʔɪʔɪ	春 月・3
諸地域言語（ウズベク語 2）	ウズベク語会話 IB	ʔɪŋɡʌ ʔɪʔɪ	秋 月・3
諸地域言語（ウズベク語 1）	ウズベク語会話 IA	ʔɪŋɡʌ ʔɪʔɪ	春 月・2
諸地域言語（ウズベク語 2）	ウズベク語会話 IB	ʔɪŋɡʌ ʔɪʔɪ	秋 月・2

2019 年度以降入学者用

- (4) 以下のカザフ語とウイグル語の授業については履修の制限はなく、誰でも自由に履修することができます。

科目名	授業題目名	教員名	学期・曜日・時限
諸地域言語（中央アジア諸語 1）	カザフ語基礎	坂井 弘紀	春 火・5
諸地域言語（中央アジア諸語 2）	初級現代ウイグル語	菅原 純	秋 水・2

- (5) その他、詳細については、個別に担当教員に相談してください。

モンゴル語

専攻言語としての履修

言語文化学部・国際社会学部共通授業でモジュールコードも共通です。

I. 1 年次学生

(1) 春学期には下記の 5 コマを履修すること。

科目名	モジュールコード	題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 (モンゴル語 I-1)	SMN261G1AX	文法 1A	山田 洋平	月・3
専攻言語 (モンゴル語 I-2)	SMN261G1BX	文法 1B	山田 洋平	金・3
専攻言語 (モンゴル語 I-3)	SMN261C1AX	会話 1A	ビヤムバハンド	火・3
専攻言語 (モンゴル語 I-4)	SMN261C1BX	会話 1B	ビヤムバハンド	水・2
専攻言語 (モンゴル語 I-5)	SMN261W1XX	作文 1	木村 理子	水・1

(2) 秋学期には下記の 5 コマを履修すること。

科目名	モジュールコード	題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 (モンゴル語 I-6)	SMN262G2AX	文法 2A	山田 洋平	月・3
専攻言語 (モンゴル語 I-7)	SMN262G2BX	文法 2B	山田 洋平	金・3
専攻言語 (モンゴル語 I-8)	SMN262C2AX	会話 2A	ビヤムバハンド	火・3
専攻言語 (モンゴル語 I-9)	SMN262C2BX	会話 2B	ビヤムバハンド	水・2
専攻言語 (モンゴル語 I-10)	SMN262W2XX	作文 2	木村 理子	水・1

II. 2 年次学生

(1) 春学期には下記の 5 コマを履修すること。

科目名	モジュールコード	題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 (モンゴル語 II-1)	SMN261C3AX	会話 3A	ビヤムバハンド	水・1
専攻言語 (モンゴル語 II-2)	SMN261C3BX	会話 3B	ビヤムバハンド	木・3
専攻言語 (モンゴル語 II-5)	SMN261R1XR	講読 1	谷川 春菜	月・3
専攻言語 (モンゴル語 II-7)	SMN261W3XX	モンゴル文字学習 (作文 3)	ズンベル	金・3
専攻言語 (モンゴル語 II-9)	SMN261H1XX	聴解 1	ガンツェツェグ	火・2

2019 年度以降入学者用

(2) 秋学期には下記の 5 コマを履修すること。

科目名	モジュールコード	題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 (モンゴル語Ⅱ-3)	SMN262C4AX	会話 4A	ビヤムバハンド	水・1
専攻言語 (モンゴル語Ⅱ-4)	SMN262C4BX	会話 4B	ビヤムバハンド	木・3
専攻言語 (モンゴル語Ⅱ-6)	SMN262R1XR	講読 1	青木 雅浩	月・3
専攻言語 (モンゴル語Ⅱ-8)	SMN262W4XX	モンゴル文字学習 (作文 4)	ズンベル	金・3
専攻言語 (モンゴル語Ⅱ-10)	SMN262H2XX	聴解 2	ガンツェツェグ	火・2

Ⅲ. 3-4 年次学生

(1) 春学期には下記の 4 コマから選択履修すること。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	曜日・時限
専攻言語 (モンゴル語Ⅲ-1)	SMN261C5XR	会話 5	ビヤムバハンド	木・2
専攻言語 (モンゴル語Ⅲ-3)	SMN261R2XR	講読 2	堀内 香里	月・2
専攻言語 (モンゴル語Ⅲ-4)	SMN261W5XR	モンゴル語作文 1 (作文 5)	山田 洋平	金・2
専攻言語 (モンゴル語Ⅲ-6)	SMN261R3XR	モンゴル語総合 (モンゴル文字読解)	ホリ口	金・3

(2) 秋学期には下記の 4 コマから選択履修すること。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	曜日・時限
専攻言語 (モンゴル語Ⅲ-2)	SMN262C5XR	会話 5	ビヤムバハンド	木・2
専攻言語 (モンゴル語Ⅲ-5)	SMN262R2XR	講読 2	青木 雅浩	月・2
専攻言語 (モンゴル語Ⅲ-7)	SMN262W5XR	モンゴル語作文 2 (作文 5)	山田 洋平	金・2
専攻言語 (モンゴル語Ⅲ-8)	SMN262R3XR	モンゴル語総合 (モンゴル文字読解)	ホリ口	金・3

【注意事項】

1. 1 年次学生が春学期に「文法 1A」「文法 1B」の試験で不可 (F 評価) を取った場合は、同年度の冬学期、翌年度の夏学期に以下の再履修者用科目を受講すること。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	学期・曜日・時限
専攻言語 (モンゴル語Ⅰ-1)	SMN262G1XX	文法 1	青木 雅浩	冬・集中
専攻言語 (モンゴル語Ⅰ-2)	SMN271G2XX	文法 2	山田 洋平	夏・集中

2. 1 年次学生が春学期に「会話 1A」「会話 1B」の試験で不可 (F 評価) を取った場合は、同年度の冬学期、翌年度の夏学期に以下の再履修者用科目を受講すること。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	学期・曜日・時限
専攻言語 (モンゴル語 I-3)	SMN262C1XX	会話 1	ビヤムバハンド	冬・集中
専攻言語 (モンゴル語 I-4)	SMN271C2XX	会話 2	未定	夏・集中

3. 1 年次学生が秋学期に「文法 2A」「文法 2B」の試験で不可 (F 評価) を取った場合は、翌年度の秋学期に同じ「文法 2A」「文法 2B」を再履修すること。

4. 1 年次学生が秋学期にビヤムバハンド先生の「会話 2A」「会話 2B」の試験で不可 (F 評価) を取った場合は、翌年度の秋学期に同じ「会話 2A」「会話 2B」を再履修すること。2 年次学生用の「会話 3A」「会話 3B」を受講することはできない。

諸地域言語としての履修

(1) モンゴル語をはじめて学習する人 (入門レベル) は、以下の「文法 1・2 (作文 1・2)」と「会話 1・2」の 2 コマを同時に履修してください。場合によっては「文法」か「会話」のいずれか 1 コマだけを履修することも可能です。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	学期・曜日・時限
諸地域言語 (モンゴル語 1)	SMN261W1XX	文法 1 (作文 1)	木村 理子	春・水・1
諸地域言語 (モンゴル語 2)	SMN262W2XX	文法 2 (作文 2)	木村 理子	秋・水・1
諸地域言語 (モンゴル語 1)	SMN262C1XX	会話 1	ビヤムバハンド	冬・集中
諸地域言語 (モンゴル語 2)	SMN261C2XX	会話 2	ビヤムバハンド	夏・集中

なお、会話 1 と会話 2 は、「専攻言語 (モンゴル語 I-3, 4)」の単位を取得できなかった学生の再履修者用科目と共通科目で、夏学期が「会話 2」、冬学期が「会話 1」となっていますが、他専攻の学生や学外の科目等履修生が、「諸地域言語 (アジア諸語)」として履修する場合は、冬学期の「会話 1」から履修し、引き続き次年度夏学期開講の「会話 2」を履修するようにしてください。

2019 年度以降入学者用

(2) モンゴル語をすでに学習した人(中級レベル)は、以下の「講読2」と「モンゴル語作文1(作文5)」を履修してください。

科目名	モジュールコード	題目	教員名	学期・曜日・時限
諸地域言語(モンゴル語1)	SMN261R2XR	講読2	堀内 香里	春・月・2
諸地域言語(モンゴル語1)	SMN261W5XR	モンゴル語作文1 (作文5)	山田 洋平	春・金・2

上記以外のモンゴル語の科目を「諸地域言語(アジア諸語)」として履修したい場合は、専攻言語(モンゴル語)の代表教員に相談すること。

インドネシア語

専攻言語としての履修

I. 1年次

(1) 春学期には、下記の5コマを必ず履修すること。

科目名	授業題目名	[モジュールコード]
専攻言語 (インドネシア語 I-1)	会話 1 A	[SIN261C1AX]
専攻言語 (インドネシア語 I-2)	会話 1 B	[SIN261C1BX]
専攻言語 (インドネシア語 I-3)	文法 1 A	[SIN261G1AX]
専攻言語 (インドネシア語 I-4)	文法 1 B	[SIN261G1BX]
専攻言語 (インドネシア語 I-5)	作文 1	[SIN261W1XX]

(2) 秋学期には、単位の修得状況によって、以下の通り履修すること。

A) 春学期開講の「文法 1 A/B」「会話 1 A/B」「作文 1」の単位を修得したら、引き続き以下の5コマを履修する。

科目名	授業題目名	[モジュールコード]
専攻言語 (インドネシア語 I-6)	会話 2 A	[SIN262C2AX]
専攻言語 (インドネシア語 I-7)	会話 2 B	[SIN262C2BX]
専攻言語 (インドネシア語 I-8)	文法 2 A	[SIN262G2AX]
専攻言語 (インドネシア語 I-9)	文法 2 B	[SIN262G2BX]
専攻言語 (インドネシア語 I-10)	作文 2	[SIN262W2XX]

B) 春学期開講の「文法 1 A/B」「会話 1 A/B」「作文 1」のうち単位未修得のものについては、秋学期開講の以下の授業から単位未修得のカテゴリの授業を履修する。

科目名	授業題目名	[モジュールコード]
専攻言語 (インドネシア語 I-2)	会話 1	[SIN262C1XX]
専攻言語 (インドネシア語 I-4)	文法 1	[SIN262G1XX]
専攻言語 (インドネシア語 I-5)	作文 1	[SIN262W1XX]

この場合、文法 1 および会話 1 についてはそれぞれ、卒業までに「反復履修可」の授業から不足分を補うことになる。

- (3) 「文法 1・2」, 「会話 1・2」, 「作文 1・2」は必修であり、これらの単位が未修得の場合は卒業できない。また「会話 1」「作文 1」の単位が未修得の場合には、それぞれ「会話 3」「作文 3」を履修することができない。

II. 2 年次

- (1) 「文法 1・2」, 「会話 1・2」, 「作文 1・2」の単位を修得した者は、基本的に以下の授業を履修すること。

	科目名	授業題目名	[モジュールコード]
春学期	専攻言語 (インドネシア語 II-1)	会話 3 J	[SIN261C3JX]
	専攻言語 (インドネシア語 II-2)	読解 1 J	[SIN261R1JX]
	専攻言語 (インドネシア語 II-3)	読解 1 L	[SIN261R1LX]
	専攻言語 (インドネシア語 II-4)	読解 1 N	[SIN261R1NX]
	専攻言語 (インドネシア語 II-5)	作文 3 J	[SIN261W3JX]

	科目名	授業題目名	[モジュールコード]
秋学期	専攻言語 (インドネシア語 II-6)	会話 3 K	[SIN262C3KX]
	専攻言語 (インドネシア語 II-7)	読解 1 K	[SIN262R1KX]
	専攻言語 (インドネシア語 II-8)	読解 1 M	[SIN262R1MX]
	専攻言語 (インドネシア語 II-9)	読解 1 O	[SIN262R1OX]
	専攻言語 (インドネシア語 II-10)	作文 3 K	[SIN262W3KX]

その他の授業については、個別に相談すること。

- (2) 「文法 1・2」, 「会話 1・2」, 「作文 1・2」の単位を修得できなかった者は、これらの授業を優先して履修すること。
- (3) 「文法 1・2」, 「会話 1・2」, 「作文 1・2」は必修であり、これらの単位が未修得の場合は卒業できない。また「会話 1」「作文 1」の単位が未修得の場合には、それぞれ「会話 3」「作文 3」を履修することができない。
- (4) その他、詳細については、個別に相談すること。

III. 3～4 年次

- (1) 基本的に、以下の授業から自らの履修計画に基づいて選択し履修すること。なお、「作文 4」, 「読解 2 J」(春学期), 「会話 4」, 「読解 2 K」(秋学期)を 3 年次で履修し、それに引き続く形で 4 年次に残りの授業を履修することが望ましい。言語文化学部の学生は、これらの授業から最低 8 単位が必修となる。

春学期	科目名	授業題目名	[モジュールコード]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-1）	作文 4	[SIN261W4XR]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-2）	作文 5	[SIN261W5XR]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-3）	読解 2 J	[SIN261R2JR]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-4）	読解 3 J	[SIN261R3JR]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-4）	読解 3 L	[SIN261R3LR]

秋学期	科目名	授業題目名	[モジュールコード]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-5）	会話 4	[SIN262C4XR]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-6）	会話 5	[SIN262C5XR]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-7）	読解 2 K	[SIN262R2KR]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-8）	読解 3 K	[SIN262R3KR]
	専攻言語（インドネシア語Ⅲ-8）	読解 3 M	[SIN262R3MR]

(2) その他、詳細については、個別に教員に相談すること。

諸地域言語としての履修

※1 国際社会学部オセアニア地域において指定を受けた学生は、地域（オセアニア）担当教員および専攻言語（インドネシア語）代表教員の指示に従って下さい。

※2 上記以外の学生は、以下の事項に従って下さい。

- (1) インドネシア語の履修を希望する者は、事前に専攻言語代表教員に相談すること。
- (2) 初めてインドネシア語を学ぶ者は、秋学期開講の「会話 1 [SIN262C1XX]」（水曜 3 限）か「文法 1 [SIN262G1XX]」（金曜 5 限）またはその両方を受講すること。なお「作文 1 [SIN262W1XX]」（水曜 2 限）の受講も希望する場合は、「文法 1」を同時に受講するか、すでに履修済みであること。
- (3) 春学期開講の「会話 2 [SIN261C2XX]」（水曜 3 限）、「文法 2 [SIN261G2XX]」（金曜 5 限）および「作文 2 [SIN261W2XX]」（水曜 2 限）を受講する場合、それぞれ「会話 1」「文法 1」「作文 1」を履修済みであること。なお、「作文 2」の履修には、「文法 2」を同時に受講するか、すでに履修済みであること。
- (4) 春学期開講の「会話 1 A」「会話 1 B」「文法 1 A」「文法 1 B」「作文 1」、および秋学期開講の「会話 2 A」「会話 2 B」「文法 2 A」「文法 2 B」「作文 2」の受講は認めない。

マレーシア語

専攻言語としての履修

I. 1 年次学生【マレーシア語 I】

マレーシア語を専攻言語とする 1 年次学生は春学期と秋学期にそれぞれ以下に指定する 5 コマの授業を履修して下さい。

春学期 文法 1A, 1B (SMAG1A, SMAG1B)	野元	<必修>
会話 1A, 1B (SMAC1A, SMAC1B)	ファリダ	<必修>
表現 1 (SMAE1X)	ハズマン	<必修>
秋学期 文法 2A, 2B (SMAG2A, SMAG2B)	野元	<必修>
会話 2A, 2B (SMAC2A, SMAC2B)	ファリダ	<必修>
表現 2 (SMAE2X)	ハズマン	<必修>

・同一種目に属する複数の授業（A と B で分かれている授業）は同一の教員が担当し、A と B で同じ成績評価がなされます。

II. 2 年次学生【マレーシア語 II】

マレーシア語を専攻言語とする 2 年次学生は春学期と秋学期にそれぞれ以下に指定する 5 コマの授業を履修して下さい。

春学期 会話 3A, 3B (SMAC3A, SMAC3B)	ファリダ	<必修>
読解 1A, 1B (SMAR1A, SMAR1B)	左右田、戸加里	<必修>
表現 3 (SMAE3X)	ハズマン	<必修>
秋学期 会話 4A, 4B (SMAC4A, SMAC4B)	ファリダ	<必修>
読解 2A, 2B (SMAR2A, SMAR2B)	左右田、戸加里	<必修>
表現 4 (SMAE4X)	ハズマン	<必修>

・読解を除く、同一種目に属する複数の授業（A と B で分かれている授業）は同一の教員が担当し、A と B で同じ成績評価がなされます。

Ⅲ. 3 年次学生【マレーシア語 III】

マレーシア語を専攻言語とする 3 年次学生は春学期と秋学期にそれぞれ以下に指定する 2-4 コマの授業を履修して下さい。

春学期 読解 3	(SMAR3X)	戸加里	<必修>
表現 5	(SMAE5X)	ファリダ	<選択必修>
ジャウイ 1	(SMAJ1X)	ファリダ	<選択必修>
秋学期 読解 4	(SMAR4X)	戸加里	<必修>
表現 6	(SMAE6X)	ファリダ	<選択必修>
表現 7	(SMAE7X)	ファリダ	<選択必修>

Ⅳ. 4 年次学生【マレーシア語 III】

マレーシア語を専攻言語とする 4 年次学生は春・夏学期と秋学期にそれぞれ以下に指定する 2-5 コマの授業を履修して下さい。

夏学期 読解 5	(SMAR5X)	ファリダ	<必修>
春学期 読解 3	(SMAR3X)	戸加里	<選択>
表現 5	(SMAE5X)	ファリダ	<選択必修>
ジャウイ 1	(SMAJ1X)	ファリダ	<選択必修>
秋学期 読解 6	(SMAR6X)	ファリダ	<必修>
読解 4	(SMAR4X)	戸加里	<選択>
表現 6	(SMAE6X)	ファリダ	<選択必修>
表現 7	(SMAE7X)	ファリダ	<選択必修>

諸地域言語としての履修

- (1) マレーシア語の履修を希望する者（特にインドネシア語専攻の学生とインドネシア語話者）は、事前に専攻言語責任者に相談して下さい。
- (2) 「文法 1A・1B」（春学期開講）、「文法 2A・2B」（秋学期開講）、「会話 1A・1B」（春学期開講）、「会話 2A・2B」（秋学期開講）は、A と B が一連の内容をもつ授業ですので、A と B の 2 コマを同時に履修してください（2 コマ 2 単位を一括して評価します）。
- (3) 「会話 1A・1B」（春学期開講）、「会話 2A・2B」（秋学期開講）を履修する方は、「文法 1A・1B」（春学期開講）、「文法 2A・2B」（秋学期開講）をすでに履修済みであるか、同時に履修することが望ましいです。

フィリピン語

専攻言語としての履修

I. 1 年次

以下をすべて履修してください。

(1) 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 1 A (SPH261G1AX)	専攻言語 (フィリピン語 I-1)	山本恭裕 火 2
文法 1 B (SPH261G1BX)	専攻言語 (フィリピン語 I-2)	山本恭裕 火 3
文法 1 C (SPH261G1CX)	専攻言語 (フィリピン語 I-3)	高野邦夫 金 2
文法 1 D (SPH261G1DX)	専攻言語 (フィリピン語 I-4)	パルマヒル 金 3
会話 1 A (SPH261C1A)	専攻言語 (フィリピン語 I-5)	パルマヒル 月 2

(2) 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 2 A (SPH262G1AX)	専攻言語 (フィリピン語 I-6)	山本恭裕 火 2
文法 2 B (SPH262G1BX)	専攻言語 (フィリピン語 I-7)	山本恭裕 火 3
文法 2 C (SPH262G1CX)	専攻言語 (フィリピン語 I-8)	高野邦夫 金 2
文法 2 D (SPH262G1DX)	専攻言語 (フィリピン語 I-9)	パルマヒル 金 3
会話 2 A (SPH262C1A)	専攻言語 (フィリピン語 I-10)	パルマヒル 月 2

II. 2 年次

以下をすべて履修してください。

(1) 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 3 A (SPH261G2AX)	専攻言語 (フィリピン語 II-1)	パルマヒル 木 3
読解 3 A (SPH261R2AX)	専攻言語 (フィリピン語 II-2)	日下渉 火 3
文法 3 B (SPH261G2BX)	専攻言語 (フィリピン語 II-3)	高野邦夫 水 2
文法 3 C (SPH261G2CX)	専攻言語 (フィリピン語 II-4)	山本恭裕 金 3
会話 3 A (SPH261C2A)	専攻言語 (フィリピン語 II-5)	パルマヒル 月 3

(2) 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 4 A (SPH262G2AX)	専攻言語 (フィリピン語 II-6)	パルマヒル 木 3
読解 4 A (SPH262R2AX)	専攻言語 (フィリピン語 II-7)	日下渉 火 3
文法 4 B (SPH262G2BX)	専攻言語 (フィリピン語 II-8)	高野邦夫 水 2
文法 4 C (SPH262G2CX)	専攻言語 (フィリピン語 II-9)	山本恭裕 金 3
会話 4 A (SPH262C2A)	専攻言語 (フィリピン語 II-10)	パルマヒル 月 3

2019 年度以降入学者用

III. 3 年次学生

3 年次には、以下の科目を履修してください。

(1) 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
会話 5 (SPH261C3A)	専攻言語 (フィリピン語 III-1)	パルマヒル 木 1
読解 A (SPH261C4LR)	専攻言語 (フィリピン語 III-3)	高野邦夫 金 1

(2) 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
会話 6 (SPH262C3B)	専攻言語 (フィリピン語 III-2)	パルマヒル 木 1
読解 B (SPH262R4LR)	専攻言語 (フィリピン語 III-4)	高野邦夫 金 1

IV. 4 年次学生

4 年次には、以下の科目を履修してください。

(1). 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
読解 C (SPH261R4KR)	専攻言語 (フィリピン語 III-5)	山本恭裕 月 2
作文 A (SPH261W4MR)	専攻言語 (フィリピン語 III-6)	パルマヒル 木 2

(2). 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
読解 D (SPH262R4KR)	専攻言語 (フィリピン語 III-7)	山本恭裕 月 2
作文 B (SPH262W4MR)	専攻言語 (フィリピン語 III-8)	パルマヒル 木 2

V. 再履修者用の科目 (研究言語科目と共通)

1 年次や 2 年次に取得できなかった科目のうち一部については**再履修者用の授業**が開講されています。落とした科目 (フィリピン語 I-1 など) と同じ科目名のもを履修してください。再履修科目にない 3 科目を落とした場合には、翌年に同じ科目をもう一度履修してください。

専攻言語科目を 15 単位以上 20 単位未満取得し 3 年次に進級した国際社会学部の学生は、不足単位を各学期 4 つ開かれている専攻言語科目 (フィリピン語 III) で充当して下さい。

- ◇ **1 年次の春学期**に、フィリピン語 I-3 を落とした学生は、1 年次の秋学期に再履修科目で充当できます。あとの 4 つの専攻言語のいずれかを落とした場合は、翌年の 2 年次春学期に、同じ科目名の 1 年生の授業を履修して下さい。
- ◇ **1 年次の秋学期**に、フィリピン語 I-10 を落とした学生は、2 年次の春学期に再履修科目で充当できます。あとの 4 つの専攻言語のいずれかを落とした場合は、翌年の 2 年次秋学期に、同じ科目名の 1 年生の授業を履修して下さい。
- ◇ **2 年次の春学期**に、フィリピン語 II-5 を落とした学生は、秋学期に再履修科目で充当できます。
- ◇ **2 年次の秋学期**に、フィリピン語 II-10 を落とした学生で、3 年進級要件を満たしていないひとは、2 年生に留まって、春学期に再履修科目を受講できます。

2019 年度以降入学者用

(1) 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
タガログ語会話(SPH261G2AX)	専攻言語 (フィリピン語 II-10)	パルマヒル 火 3
会話 2A (SPH261C1A)	専攻言語 (フィリピン語 I-10)	高野邦夫 水 1

(2) 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
タガログ語会話(SPH262G3BX)	専攻言語 (フィリピン語 II-5)	パルマヒル 火 3
文法 1C (SPH262G1CX)	専攻言語 (フィリピン語 I-3)	高野邦夫 水 1

VI. 諸地域言語としての履修

他専攻の学生が、フィリピン語を諸地域言語として履修する場合には、以下から選択して下さい。

(1) 春学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 2A (SPH261G1AX)	諸地域言語 (フィリピン語 1)	山本恭裕 火 2
文法 2B (SPH261G2AX)	諸地域言語 (フィリピン語 1)	パルマヒル 火 3
文法 2C (SPH261C1A)	諸地域言語 (フィリピン語 1)	高野邦夫 水 1
文法 2D (SPH261G1BX)	諸地域言語 (フィリピン語 1)	山本恭裕 火 3
フィリピン語 (SPH261G1CX)	諸地域言語 (フィリピン語 1)	高野邦夫 金 2
フィリピン語 (SPH261G1DX)	諸地域言語 (フィリピン語 1)	パルマヒル 金 3
フィリピン語 (SPH261C1A)	諸地域言語 (フィリピン語 1)	パルマヒル 月 2
フィリピン語 (SPH261G2CX)	諸地域言語 (フィリピン語 1)	山本恭裕 金 3

(2) 秋学期

題目名・モジュールコード	科目名	教員名・曜日・時限
文法 1A (SPH262G1AX)	諸地域言語 (フィリピン語 2)	山本恭裕 火 2
文法 1B (SPH262G3BX)	諸地域言語 (フィリピン語 2)	パルマヒル 火 3
文法 1C (SPH262G1CX)	諸地域言語 (フィリピン語 2)	高野邦夫 水 1
文法 1B (SPH262G1BX)	諸地域言語 (フィリピン語 2)	山本恭裕 火 3
フィリピン語 (SPH262G1CX)	諸地域言語 (フィリピン語 2)	高野邦夫 金 2
フィリピン語 (SPH262G1DX)	諸地域言語 (フィリピン語 2)	パルマヒル 金 3
フィリピン語 (SPH262C1A)	諸地域言語 (フィリピン語 2)	パルマヒル 月 2
フィリピン語 (SPH262G2CX)	諸地域言語 (フィリピン語 2)	山本恭裕 金 3

タイ語

(A) 専攻言語としての履修

「専攻言語」科目とは、入学時に指定された言語を習得するための言語科目です。すべて半期毎に開講され、1科目「1単位」が認定されます。

I. 1年次学生

(1) 春学期は次の5科目が必修です。

科目名	授業 題目名	学期	履修 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
専攻言語 (タイ語 I-1)	文法 1	春	1	ST261G1XX	宮田敏之	木・3
専攻言語 (タイ語 I-2)	講読 1	春	1	ST261R1XX	宮田敏之	月・3
専攻言語 (タイ語 I-3)	会話 1A	春	1	ST261C1AX	スニサー	火・2
専攻言語 (タイ語 I-4)	会話 1B	春	1	ST261C1BX	スニサー	火・3
専攻言語 (タイ語 I-5)	聴解 1	春	1	ST261H1XX	コースイット	金・3

(2) 秋学期は次の5科目が必修です。

科目名	授業 題目名	学期	履修 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
専攻言語 (タイ語 I-6)	文法 2	秋	1	ST262G2XX	中山玲子	金・2
専攻言語 (タイ語 I-7)	講読 2	秋	1	ST262R2XX	上原みどりこ	月・3
専攻言語 (タイ語 I-8)	会話 2A	秋	1	ST262C2AX	スニサー	火・2
専攻言語 (タイ語 I-9)	会話 2B	秋	1	ST262C2BX	スニサー	火・3
専攻言語 (タイ語 I-10)	聴解 2	秋	1	ST262H2XX	コースイット	金・3

(3) 春学期「文法 1」の単位を取得できなかった者は、下記の表の秋学期モジュールコード

(ST262G1XK) の科目を受講できます。春学期「会話 1A」の単位を取得できなかった者は、秋学期モジュールコード (ST262C1XK) の科目を受講できます。春学期に、これ以外の科目の単位を取得できなかった場合は、次年度の春学期以降に履修しなおして下さい。

科目名	授業 題目名	学期	履修 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
専攻言語 (タイ語 I-1)	文法 1	秋	1	ST262G1XK	上原みどりこ	月・2
専攻言語 (タイ語 I-3)	会話 1	秋	1	ST262C1XK	スニサー	火・4

(4) 春学期に単位を取得できなかった科目があっても、上記(2)の秋学期開講のタイ語5科目を履修することができます。その場合も、上記(1)で単位を取得できなかった科目は、すべて、上の(3)の授業、あるいは次年度以降、履修しなければなりません。

(5) 大学入学以前にタイ語を学習したことがある新入生は、上記の履修モデルによらないで履修することができますが、履修登録する前に必ず専攻語代表教員及び授業担当教員に相談して下さい。ここでいう授業担当教員とは、1年生の当該科目担当教員と特別に履修を希望する上級生向け授業科目担当教員のことをいいます。

II. 2年次学生

(1) 第1年次と第2年次の間に専攻言語タイ語を「15単位」以上取得しなければ、第3年次に進級できません。第3年次から第4年次へ進級するときには要件はありません。

(2) **春学期**は次の5科目が必修です。

科目名	授業 題目名	学期	履修 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
専攻言語(タイ語Ⅱ—1)	文法3	春	2	ST261G3XX	コースイット	木・3
専攻言語(タイ語Ⅱ—2)	講読3	春	2	ST261R3XX	宮田敏之	火・2
専攻言語(タイ語Ⅱ—3)	会話3	春	2	ST261C3XX	スニサー	月・3
専攻言語(タイ語Ⅱ—4)	聴解3	春	2	ST261H3XX	中山玲子	金・3
専攻言語(タイ語Ⅱ—5)	作文1	春	2	ST261W1XX	スニサー	水・1

(3) 以下の科目は、前年度の秋学期に「会話2A」を取得できなかった場合の科目です。

科目名	授業 題目名	学期	履修 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
専攻言語(タイ語Ⅰ—8)	会話2	春	2	ST261C2XK	スニサー	火・4

(4) **秋学期**は次の5科目が必修です。

科目名	授業 題目名	学期	履修 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限
専攻言語(タイ語Ⅱ—6)	文法4	秋	2	ST262G4XX	コースイット	木・3
専攻言語(タイ語Ⅱ—7)	講読4	秋	2	ST262R4XX	宮田敏之	火・2
専攻言語(タイ語Ⅱ—8)	会話4	秋	2	ST262C4XX	スニサー	月・3
専攻言語(タイ語Ⅱ—9)	聴解4	秋	2	ST262H4XX	中山玲子	金・3
専攻言語(タイ語Ⅱ—10)	作文2	秋	2	ST262W2XX	スニサー	水・1

(5) 春学期に単位を取得できない科目があっても、上記(4)の秋学期開講の5科目を履修することができます。春学期に単位を取得できなかった科目は次年度以降、当該の科目を履修しなければなりません。秋学期に単位を取得できなかった科目も次年度以降、当該の科目を履修しなければなりません。

(6) 上級生のタイ語科目を受講することが可能な能力を持つ2年次生は、上記の履修モデルによらないで

3・4年次生向けの授業を履修することができますが、履修登録する前に必ず専攻語代表教員及び授業担当教員に相談して下さい。ここでいう授業担当教員とは、2年生の当該科目担当教員と特別に履修を希望する3・4年次生向け授業科目担当教員のことをいいます。

Ⅲ. 3～4年次学生

(1) 「タイ語Ⅲ」として開講される9つの授業は「反復履修可」です。同じ科目を何度履修しても、単位が取得できれば、その都度、単位は認められます。これら9つの授業すべてを受講する必要はありません。各自の判断で自由に選択してください。「言語文化学部」の学生は「タイ語Ⅲ」(9科目開講)の中から最低8単位(8科目分の単位)を、3年次から卒業までに、必ず履修しなければなりません。「国際社会学部」の学生も「タイ語Ⅲ」(9科目)を自由に選択して受講できます。タイ語学習の集大成として、できるだけ、タイ語Ⅲの科目を履修することが望まれます。

(2) 春学期に開講される「タイ語Ⅲ」は次の5科目です。

これらの授業すべてを受講する必要はありません。各自の判断で自由に選択して履修してください。どの授業も「反復履修可」です。同じ科目を何度履修しても、単位が取得できれば、その単位は認められます。

科目名	授業 題目名	学期	履修 年次	モジュール コード	担当	曜限・時限
専攻言語(タイ語Ⅲ—2)	聴解 5	春	3-4	ST261H5XR	パタニ	水・3
専攻言語(タイ語Ⅲ—2)	講読 5	春	3-4	ST261R5XR	柴山信二郎	火・1
専攻言語(タイ語Ⅲ—2)	講読 6	春	3-4	ST261R6XR	コースイット	木・2
専攻言語(タイ語Ⅲ—3)	会話 5	春	3-4	ST261C5XR	スニサー	月・2
専攻言語(タイ語Ⅲ—4)	作文 3	春	3-4	ST261W3XR	スニサー	水・2

(3) 夏学期に「タイ語Ⅲ」は開講されません。

(4) 秋学期に開講される「タイ語Ⅲ」は次の4科目です。

これらの授業すべてを受講する必要はありません。各自の判断で自由に選択して履修してください。どの授業も「反復履修可」です。同じ科目を何度履修しても、単位が取得できれば、その単位は認められます。

科目名	授業 題目名	学期	履修 年次	モジュール コード	担当	曜日・時限時
専攻言語(タイ語Ⅲ—6)	聴解 6	秋	3-4	ST262H6XR	パタニ	水・3
専攻言語(タイ語Ⅲ—6)	講読 7	秋	3-4	ST262R7XR	宮田敏之	木・2
専攻言語(タイ語Ⅲ—3)	会話 6	秋	3-4	ST262C6XR	コースイット	木・2
専攻言語(タイ語Ⅲ—8)	作文 4	秋	3-4	ST262W4XR	スニサー	水・2

IV. 2026 年度タイ語モジュール標準進度表

	G文法	C会話	R講読	H聴解	W作文
1年 春学期	文法1宮田(木3)	会話1Aスニサー(火2) 会話1Bスニサー(火2)	講読1宮田(月3)	聴解1コースイット(金3)	
1年 秋学期	文法2中山(金2) (再履修用・文法1)上原(月2)	会話2Aスニサー(火2) 会話2Bスニサー(火2) (再履修用・会話1)スニサー(火4)	講読2上原(月3)	聴解2コースイット(金3)	
2年 春学期	文法3コースイット(木3)	会話3スニサー(月3) (再履修用・会話2)スニサー(火4)	講読3宮田(火2)	聴解3中山(金3)	作文1スニサー(水1)
2年 秋学期	文法4コースイット(木3)	会話4スニサー(月3)	講読4宮田(火2)	聴解4中山(金3)	作文2スニサー(水1)
3・4年 春学期		会話5スニサー(月2)	講読5柴山(火1) 講読6コースイット(木2)	聴解5パタニ(水3)	作文3スニサー(水2)
3・4年 秋学期		会話6コースイット(木2)	講読7宮田(木2)	聴解6パタニ(水3)	作文4スニサー(水2)

V. 2026 年度 タイ語モジュール時間割(専攻言語・地域基礎)

<注1>①は1年生用の科目、②は2年生、③は3年生、④は4年生用の科目であることを示します。

<注2>授業形態は、大学の指示により、<対面>から<オンライン>に変更になる可能性があります。

【春学期】

	月	火	水	木	金
1			①ルー講義東南アジア地域基礎・予定<オンライン> ③④講読5・柴山(火1)<オンライン>		
2	③④会話5・スニサー(月2)<対面>	①会話1A・スニサー(火2)<対面> ②講読3宮田(火2)<対面>	①タイ研究入門・宮田(水2)<オンライン> ③④作文3・スニサー(水2)<対面>	③④講読6・コースイット(木2)<対面>	
3	①講読1・宮田(月3)<対面> ②会話3・スニサー(月3)<対面>	①会話1B・スニサー(火3)<対面>	③④聴解5・パタニ(水3)<オンライン>	①文法1・宮田(木3)<対面> ②文法3・コースイット(木3)<対面>	①聴解1・コースイット(金3)<対面> ②聴解3・中山(金3)<対面>
4		裏・会話2・スニサー(火4)<対面>			

【夏学期】 集中講義 不開講

【秋学期】

	月	火	水	木	金
1			②作文2・スニサー(水1)〈対面〉		
2	裏・文法1・上原(月2)〈対面〉 ③④タイ語研究入門スニサー(月2)〈対面〉	①会話2A・スニサー(火2)〈対面〉 ②講義4宮田(火2)〈対面〉	①タイ研究入門・宮田(水2)〈対面〉 ③④作文4・スニサー(水2)〈対面〉	③④講義7・宮田(木2)〈対面〉 ③④会話6・コースイット(木2)〈対面〉	①文法2・中山玲(金2)〈対面〉
3	①講義2・上原(月3)〈対面〉 ②会話4・スニサー(月3)〈対面〉	①会話2B・スニサー(火3)〈対面〉	③④聴解6・パタニ(水・3)〈オンライン〉	②文法4・コースイット(木3)〈対面〉	①聴解2・コースイット(金3)〈対面〉 ②聴解4・中山玲(金3)〈対面〉
4		裏・会話1・スニサー(火4)〈対面〉			

(B) 諸地域言語としての履修

受講前に、必ず、シラバスを熟読し、タイ語研究室教員に相談して、授業内容やレベルを確認した上で、受講の許可を受けてください。事前の相談なしにいきなり授業に出席しても、受講を許可できない場合があるので注意してください。タイ語学習の目的を明確に持ち、真剣にタイ語学習に取り組むことのできる学生のみ受講できます。

タイ語を初めて学ぶ学生は、必ず以下の「タイ文法1」(秋学期)または「タイ会話1」(秋学期)から始めて下さい。

科目名	科目番号	授業 題目名	学期	履修可 能年次	担当	曜日・時限
諸地域言語 (タイ語 1)	タイ語/ST1	タイ文法 1	秋学期	3-4	上原みどりこ	月・2
諸地域言語 (タイ語 1)	タイ語/ST2	タイ会話 1	秋学期	3-4	スニサー	火・4

2019 年度以降入学者用

（諸地域言語諸語 1）初級および初中級レベル

科目	科目番号	授業題目	教員名	学期	曜日	時限
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST1	タイ文法 1	上原 みどりこ	秋学期	月曜日	2
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST2	タイ会話 1	スニサー	秋学期	火曜日	4
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST3	タイ会話 2	スニサー	春学期	火曜日	4
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST4	タイ語文法 3	コースイット	春学期	木曜日	3
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST5	タイ語講読 3	宮田 敏之	春学期	火曜日	2
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST6	タイ語会話 3	スニサー	春学期	月曜日	3
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST7	タイ語聴解 3	中山玲子	春学期	金曜日	3
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST8	タイ語作文 1	スニサー	春学期	水曜日	1
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST9	タイ語文法 4	コースイット	秋学期	木曜日	3
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST10	タイ語講読 4	宮田 敏之	秋学期	火曜日	2
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST11	タイ語会話 4	スニサー	秋学期	月曜日	3
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST12	タイ語聴解 4	中山玲子	秋学期	金曜日	3
諸地域言語(タイ語 1)	タイ語/ST13	タイ語作文 2	スニサー	秋学期	水曜日	1

（諸地域言語 2）中級および上級レベル

科目	科目番号	授業題目	教員名	学期	曜日	時限
諸地域言語(タイ語 2)	タイ語/ST14	タイ語聴解 5	パタニ	春学期	水曜日	3
諸地域言語(タイ語 2)	タイ語/ST15	タイ語講読 5	柴山 信二郎	春学期	火曜日	1
諸地域言語(タイ語 2)	タイ語/ST16	タイ語講読 6	コースイット	春学期	木曜日	2
諸地域言語(タイ語 2)	タイ語/ST17	タイ語講読 7	宮田 敏之	秋学期	木曜日	2
諸地域言語(タイ語 2)	タイ語/ST18	タイ語会話 5	スニサー	春学期	月曜日	2
諸地域言語(タイ語 2)	タイ語/ST19	タイ語作文 3	スニサー	春学期	水曜日	2
諸地域言語(タイ語 2)	タイ語/ST20	タイ語聴解 6	パタニ	秋学期	水曜日	3
諸地域言語(タイ語 2)	タイ語/ST21	タイ語会話 6	コースイット	秋学期	木曜日	2
諸地域言語(タイ語 2)	タイ語/ST24	タイ語作文 4	スニサー	秋学期	水曜日	2

<注意> 受講前に、必ず、シラバスを十分に参照した上で、タイ語代表教員あるいは授業担当教員に相談し、授業内容やレベルを確認し、受講許可を受けること。

ラオス語

専攻言語としての履修

(1) ラオス語コマには下記のカテゴリーがあり、どのカテゴリーも半期ごとに原則としてレベルを一つずつ上がっていくものとします。レベルの逆行は認めません。

G:文法 H:聴解 R:読解 C:会話 W:作文 T:翻訳

(2) 下記の標準的な履修進度表を参考にして履修計画をたて、学期はじめの教員との面接に臨んでください。

①下線が付してあるものは、モジュールコード末尾に-R (=Repeat) がついています。これらは反復履修が可能な科目で、単位もその都度認められます。

②別途、2年春学期にC2(会話2)、2年夏学期集中にR1(読解1)、2年秋学期にH3(聴解3)、2年冬学期集中にR2(読解2)、1年秋学期にC1(会話1)、1年冬学期集中にG1(文法1)を開講する予定です。これらは再履修者用コマです。

* 標準的な履修進度表

	文法 G	聴解 H	読解 R	会話 C	作文 W	翻訳 T
1年春学期	G1-A, B, C	H1		C1		
1年秋学期		H2	R1-A, B, C	C2		
2年春学期			R2-A, B	C3	W1	T1
2年秋学期			R3-A, B	C4	W2	T2
3年春学期			<u>R4</u>	<u>C5</u>	<u>W3</u>	<u>T3</u>
3年秋学期			<u>R5</u>	<u>C6</u>	<u>W4</u>	<u>T4</u>
4年春学期			<u>(R4)</u>	<u>(C5)</u>	<u>(W3)</u>	<u>(T3)</u>
4年秋学期			<u>R5</u>	<u>C6</u>	<u>W4</u>	<u>T4</u>

(3) 以下は学年ごとの注意事項です。詳細は面接の際、個別に相談をしてください。

I. 1年次生

- ①春学期は「文法1A」「文法1B」「文法1C」「会話1」「聴解1」の5コマを履修してください。
- ②秋学期は「読解1A」「読解1B」「読解1C」「会話2」「聴解2」の5コマを履修してください。
- ③「文法1A」「文法1B」「文法1C」は3コマ一括履修です。春学期にこれらの単位を取得できなかった者は、冬学期に「文法1」(集中)を履修してください。

- ④春学期に「会話 1」の単位を取得できなかった者は、秋学期に「会話 1」を履修してください。
- ⑤「読解 1A」「読解 1B」「読解 1C」は 3 コマ一括履修です。

II. 2 年次生

- ①春学期は「翻訳 1」「会話 3」「読解 2A」「読解 2B」「作文 1」の 5 コマを履修してください。
- ②秋学期は「翻訳 2」「会話 4」「読解 3A」「読解 3B」「作文 2」の 5 コマを履修してください。
- ③前年度、「会話 2」の単位を取得できなかった者は、春学期に「会話 2」を履修してください。
- ④前年度、「読解 1A」「読解 1B」「読解 1C」の単位を取得できなかった者は、夏学期に「読解 1」(集中)を履修してください。
- ⑤春学期に「読解 2A」「読解 2B」の単位を取得できなかった者は、秋学期に「読解 3」、冬学期に「読解 2」(集中)を履修してください。
- ⑥「読解 2A」「読解 2B」、および「読解 3A」「読解 3B」はそれぞれ 2 コマ一括履修です。

III. 3～4 年次生

- ①上記(2)の標準進捗表を参考に慎重に計画をたて、面接の際、個別に相談をしてください。
- ②4 年次生は、上記履修進捗表の()に示すように、リポートが可能なコマでも前年度すでに単位を取得済みの場合は原則としてレベルの逆行は認めません。同じレベルはリポート可です。

諸地域言語としての履修

- (1) 初めてラオス語を学ぶ者は、秋学期から「ラオス語会話 1」(金・4)を履修してください。
- (2) 春学期「ラオス語聴解 1」は前年度秋学期「会話 1」の単位を取得済みの者に限ります。
- (3) 下記クラスは、ラオス語の読み書きができ、初級文法をひとつお終えている者が対象です。ただし、各コマで内容や難易度が異なりますので、必ず事前にラオス語担当の日本人教員にメールで連絡の上、内容の確認や受講の可否についての面接を受けてください。
 - ①春学期「ラオス語会話 2」「ラオス語会話 5」「ラオス語翻訳 3」「ラオス語読解 4」「ラオス語作文 3」
 - ②夏集中「ラオス語読解 1」
 - ③秋学期「ラオス語聴解 3」「ラオス語会話 6」「ラオス語翻訳 4」「ラオス語読解 5」「ラオス語作文 4」
 - ④冬集中「ラオス語読解 2」

ベトナム語

専攻言語としての履修

- (1) 言語文化学部の学生は、第1年次から第4年次までに28単位を履修します。
- (2) 国際社会学部の学生は、第1年次から第2年次までに20単位を履修します。第3年次から第4年次にかけて、さらに選択履修することも可能です。積極的な履修をすすめます。
- (3) 言語文化学部、国際社会学部ともに、第2年次末までに15単位履修（ベトナム語Ⅰとベトナム語Ⅱから）が進級要件に含まれています。
- (4) 各科目ともレベル1、2に関しては、2学期に再履修用科目が設定されているものとそうでないものがあります。
- (5) 「文法Ⅰ-1,2」は2コマセット履修科目です。単位は1コマ（1単位）ずつの認定で、2単位の認定をもって履修済となります。2単位に満たない場合は、次のセメスター（秋学期）での2コマセット再履修が必要になります。
- (6) 「読解Ⅰ-3」、「会話Ⅰ-4」は、それぞれ未履修の場合、「読解Ⅰ-7」、「会話Ⅰ-8」を履修することができません。また、次のセメスター（秋学期）でのそれぞれの科目の再履修ができないので、注意してください。
- (7) 「表現Ⅰ-10」は秋学期から開講します。
- (8) 秋学期の科目履修登録を忘れる学生が見受けられます。このようなことがないように十分注意してください。

* 標準的な履修手順

	文法 G	読解 R	会話 C	聴解 L	表現 E	履修単位
1年次春学期	I-1, 2	I-3	I-4	I-5		5
1年次秋学期	I-6 <u>I-1, 2</u>	I-7	I-8	I-9 <u>I-5</u>	I-10	5
2年次春学期	II-1	II-2	II-3	II-4	II-5	5
2年次秋学期	II-6	II-7	II-8	II-9	II-10	5
3年次春学期		III-1, III-3	III-7, III-8	III-2		8
3年次秋学期		III-3, III-4	III-8	III-7	III-5	
4年次春学期		III-1, III-3	III-7, III-8	III-2		
4年次秋学期		III-3, III-4	III-8	III-7	III-5	

下線付きの科目は、再履修用科目および諸地域言語科目です。

- モジュールコード末尾に付されたR記号は、反復(Repeat)履修可能科目です。積極的な履修活用をすすめます。

諸地域言語としての履修

- (1) 初学者が履修できるのは、春学期開講の「ベトナム語入門」(木・2)に限定する。その後、引き続き学ぶ場合には、秋学期開講の「ベトナム語入門 II」(月・4)を受講すること。
- (2) ベトナム語既習者については、ベトナム語専攻教員とあらかじめ相談した上で、受講可能なクラスを選択すること。

カンボジア語

専攻言語としての履修

カテゴリー G: 文法 W: 作文 C: 会話 R: 講読

モジュールコードには、SCA の後に年度の末尾の二桁が入ります。

履修上の注意

- (1) 基本として、カテゴリごとにレベル順に履修してください。反復履修不可の授業についてはレベルの逆行はできません。グループとして指定された授業はまとめて受講してください。
- (2) 1年次の春学期には SCA1G1AX, SCA1G1BX, SCA1G1CX, SCA1G1DX, SCA1C1XX の5コマを履修してください。
- (3) 1年次の秋学期には SCA2R1AX, SCA2R1BX, SCA2W1XX, SCA2G2XX, SCA2C2XX の5コマを履修してください。
- (4) 1年次の春学期 SCA1C1XX の単位未修得の場合は、秋学期に SCA2C1XX の1コマを履修してください。
- (5) 2年次以上の履修については、学期ごとの説明会の際、説明します。

ビルマ語

専攻言語としての履修

専攻言語（ビルマ語）の標準履修パターン

学年	学期	会話系	文法・読解系			作文系
1	1	C1	G1A	G1B	1	1
	2	C2	G2A	G2B		2
2	1	C3	G3	R2A	2	1
	2	C4	G4	R3A		2
3	1	P1*	/	R4 以上*		3
	2	P2*				
4	1	P3*				4
	2	P4*				

*は反復履修が可能な授業

- (1) 1 学年と 2 学年では基本的に標準履修パターンに沿って履修して下さい。3 学年以上では開講されている科目から自由に選んで履修することができます（ただし取得済み科目の状況による履修の制限はあります）。
- (2) 1 学年と 2 学年で不合格の科目がある場合、必ず教員の履修指導を受けてから履修登録をして下さい。
- ※1 学年は学期末に教員による面談を行ない、そこで履修指導をします。
- ※同じ学期分で 3 科目以上不合格となった場合は、翌年に 1 科目以上再履修しなければなりません。
- (3) 原則として同系列の直前の科目が不合格の場合、当該レベルの科目は履修できますが、その上の科目は履修できません。ただし P と R の一部はそれができません（次項を参照）。また T についても特記事項があります（5 を参照）。
- 例 1：C1 が不合格の場合、1 学年秋学期に C2 を履修することは可能。
- 例 2：G4 が不合格で 3 学年春学期に R4A に合格した場合、3 年秋学期に G4 と R4B を同時に履修可能。
- (4) P3 および P4 は原則として P1 と P2 の両方を取得済みでないと履修することができません。ただし現地留学を経験しているなどの場合は教員が特別に履修を許可することがありますので、事前に教員に相談して下さい。
- (5) T は W4 に加え、G4 も取得済みでないと履修することができません。

諸地域言語としての履修

- (1) 春学期のビルマ語初級として「会話 1」「文法 1A」「文法 1B」「文法 1C」「作文 1」の 5 科目を履修することができます。原則としてこの 5 科目をまとめて履修して下さい。ただし履修状況などにより、どうしても 5 科目を同時に受講することが難しい場合は、履修登録をする前に専攻言語代表教員のところまで相談をしに来て下さい。

- (2) 秋学期のビルマ語初級として「会話 2」「文法 2A」「文法 2B」「読解 1」「作文 2」の 5 科目を履修することができます。原則として会話 1、文法 1A、文法 1B、文法 1C、作文 1 の 5 科目を受講しているものに限り、この 5 科目を受講していない場合は、履修登録をする前に専攻言語代表教員のところまで相談をしに来て下さい。なお文法 2A、2B はなるべく同時に履修して下さい。

- (3) さらに上のレベルのビルマ語を身につけたい場合、ビルマ語中級として春学期に「会話 3」「文法 3」「読解 2A」「読解 2B」「作文 3」が、秋学期に「会話 4」「文法 4」「読解 3A」「読解 3B」「作文 4」を受講することができます。ただしビルマ語初級の受講状況により、履修が許可されない場合もありますので、履修登録をする前に専攻言語代表教員のところまで相談をしに来て下さい。

ヒンディー語

専攻言語としての履修

- (1) 2年生から3年生への「進級要件」として専攻言語 15 単位以上を単位取得することが必要です。
- (2) 言語文化学部の学生は「卒業要件」として専攻言語 28 単位以上を単位取得することが必要です。
- 国際社会学部の学生は「卒業要件」として専攻言語 20 単位以上を単位取得することが必要です。
- (国際社会学部の学生も、卒業要件を超えて専攻言語を積極的に履修することを推奨します)

学年毎の標準的な履修モデルは以下の通りです（留学などにより多少の変動があります）。

	文法	読解	作文	会話	履修単位
1 年次春学期	I-1, I-2, I-3		I-4	I-5	5
1 年次秋学期	I-6, I-7, I-8		I-9	I-10	5
2 年次春学期		II-3, II-4, II-5	II-1	II-2	5
2 年次秋学期		II-8, II-9, II-10	II-6	II-7	5
3 年次春学期		III-1	III-2	III-3	8
3 年次秋学期		III-4	III-5	III-6	
4 年次春学期				III-7	
4 年次秋学期				III-8	

(注1) I-1, I-4, I-6, I-9 については翌学期に補習コマが設けられています

(注2) III-1, III-4 についてはそれぞれ 2 種類の授業が開講されています

ヒンディー語専攻の学生については学期の開始時に面談が行われるので、その際に履修指導を受けて下さい。

母語話者など、高いレベルでヒンディー語の学習経験がある学生、あるいは個別の事情がある学生は、上記のモデルの順によらず履修することができますが、専攻語代表教員によるレベルの確認と承認を受けて下さい。

2019 年度以降入学者用

【1 年次】 言語文化学部・国際社会学部共通

新入生（1 年生）は「ヒンディー語 I」として開講されている以下の 10 コマ（各学期 5 コマ）を履修して下さい。

科目名	カテゴリ	教員名	学期	曜日	時限	モジュールコード
専攻言語（ヒンディー語 I-1）	文法 A	足立 享祐	春学期	火曜日	2	SHI261G1AX
専攻言語（ヒンディー語 I-2）	文法 B	足立 享祐	春学期	火曜日	3	SHI261G1BX
専攻言語（ヒンディー語 I-3）	文法 C	バルデシ・ブ・ラジャント	春学期	金曜日	1	SHI261G1CX
専攻言語（ヒンディー語 I-4）	作文	石川 さくら	春学期	水曜日	2	SHI261W1XX
専攻言語（ヒンディー語 I-5）	会話	ミッシュル・リシャージュ	春学期	水曜日	1	SHI261C1XX
専攻言語（ヒンディー語 I-6）	文法 A	足立 享祐	秋学期	火曜日	2	SHI262G2AX
専攻言語（ヒンディー語 I-7）	文法 B	足立 享祐	秋学期	火曜日	3	SHI262G2BX
専攻言語（ヒンディー語 I-8）	文法 C	バルデシ・ブ・ラジャント	秋学期	金曜日	1	SHI262G2CX
専攻言語（ヒンディー語 I-9）	作文	石川 さくら	秋学期	水曜日	2	SHI262W2XX
専攻言語（ヒンディー語 I-10）	会話	ミッシュル・リシャージュ	秋学期	水曜日	1	SHI262C2XX

上記の「I-1」「I-6」（担当：足立）、「I-4」「I-9」（担当：石川）の単位を取得できなかった場合に限り、翌学期に開講される以下の同じ科目名の補習コマを履修して下さい（補習コマのみを履修することは認めません）。補習コマは、初習者向けの「諸地域言語」と同時開講ですが、「専攻言語」としての履修者は、それに相応しい基準で成績評価がなされます。

専攻言語（ヒンディー語 I-1）	文法	澤田 彰宏	秋学期	木曜日	5	SHI262G1AR
専攻言語（ヒンディー語 I-4）	作文	今村 泰也	秋学期	月曜日	2	SHI262W1XR
専攻言語（ヒンディー語 I-6）	文法	澤田 彰宏	春学期	木曜日	5	SHI261G2BR
専攻言語（ヒンディー語 I-9）	作文	今村 泰也	春学期	月曜日	2	SHI262W1XR

補習コマが設けられていない科目の単位を取得できなかった場合、翌年度に開講される同一科目を再履修して下さい。補習コマの単位を取得できなかった場合は、さらに翌学期に開講される足立・石川が担当する同一科目をそれぞれ再履修してください。

2019 年度以降入学者用

【2 年次】 言語文化学部・国際社会学部共通

2 年生は、基本的に「ヒンディー語 II」として開講されている以下の 10 コマ（各学期 5 コマ）を履修します。

以下の表でカテゴリに(*)がついている科目については、履修に必要な取得済み単位の制限が設けられています。それぞれの科目のシラバスをよく読み、履修上の条件に従って下さい。

専攻言語 (ヒンディー語 II-1)	作文	ミッシェル・リケーシュ	春学期	月曜日	3	SHI261W3XX
専攻言語 (ヒンディー語 II-2)	会話	ミッシェル・リケーシュ	春学期	木曜日	3	SHI261C3XX
専攻言語 (ヒンディー語 II-3)	読解 A*	足立 享祐	春学期	金曜日	3	SHI261R1AX
専攻言語 (ヒンディー語 II-4)	読解 B	足立 享祐	春学期	水曜日	2	SHI261R1BX
専攻言語 (ヒンディー語 II-5)	読解 C	石川 さくら	春学期	水曜日	1	SHI261R1CX
専攻言語 (ヒンディー語 II-6)	作文	ミッシェル・リケーシュ	秋学期	月曜日	3	SHI262W4XX
専攻言語 (ヒンディー語 II-7)	会話	ミッシェル・リケーシュ	秋学期	木曜日	3	SHI262C4XX
専攻言語 (ヒンディー語 II-8)	読解 A	足立 享祐	秋学期	金曜日	3	SHI262R2AX
専攻言語 (ヒンディー語 II-9)	読解 B*	石川 さくら	秋学期	水曜日	1	SHI262R2BX
専攻言語 (ヒンディー語 II-10)	読解 C*	高倉嘉男 (足立)	秋学期	金曜日	5	SHI262R2CX

2 年生から 3 年生へ進級するためには、「ヒンディー語 I」および「ヒンディー語 II」として開講されている単位 20 単位のうち 15 単位以上を取得する必要があります。

【3 年次】

3 年生以降、「ヒンディー語 III」を履修します。以下の科目が開講されています (* は履修制限のあるコマです)。基本となるモジュールがそれぞれに設定されていますが、それまでの学習を踏まえた総合的な知識が必要な科目となっています。

専攻言語 (ヒンディー語 III-1)	読解	足立 享祐	春学期	火曜日	5	SHI261R3AX
専攻言語 (ヒンディー語 III-1)	読解*	石川 さくら	春学期	月曜日	2	SHI261R3BX
専攻言語 (ヒンディー語 III-2)	作文	ミッシェル・リケーシュ	春学期	木曜日	2	SHI261W5XX
専攻言語 (ヒンディー語 III-3)	会話	ミッシェル・リケーシュ	春学期	月曜日	1	SHI261C5XX
専攻言語 (ヒンディー語 III-4)	読解*	足立 享祐	秋学期	火曜日	5	SHI261R4AX
専攻言語 (ヒンディー語 III-4)	読解	竹崎 隆太郎	秋学期	月曜日	2	SHI261R4BX
専攻言語 (ヒンディー語 III-5)	作文	ミッシェル・リケーシュ	秋学期	木曜日	2	SHI262W6XX
専攻言語 (ヒンディー語 III-6)	会話	ミッシェル・リケーシュ	秋学期	月曜日	1	SHI262C6XX
専攻言語 (ヒンディー語 III-7)	会話*	ミッシェル・リケーシュ	春学期	木曜日	1	SHI261C7SX
専攻言語 (ヒンディー語 III-8)	会話*	ミッシェル・リケーシュ	秋学期	木曜日	1	SHI262C8SX

言語文化学部の学生は卒業要件として「ヒンディー語 III」の中から 8 単位以上の取得が必要です。

国際社会学部の学生も「ヒンディー語 III」の積極的な履修が推奨されます。

なお「専攻語 III」は反復履修科目です。「ヒンディー語 III」において同じ科目名のコマを反復履修する場合、異なる教員が開講するコマを履修することとします。

【4 年次】

言語文化学部、国際社会学部共に、卒業に必要な残りの単位を取得すること。

「ヒンディー語 III」のうち以下の 2 科目は最上位レベルの科目です。取得済み単位による履修制限があります。

諸地域言語としての履修

＜ヒンディー語を初めて学ぶ方へ＞

秋学期からスタートする「諸地域言語（ヒンディー語）」（授業題目「ヒンディー語入門 1」 担当：澤田/今村）から履修して下さい。（A：オンライン授業）と（B：対面授業）の 2 つのコースが開講されています。いずれかのコースを選択してください。秋学期に初習者向け文法の前半を学習します。翌年度の春学期に「ヒンディー語入門 2」が開講されており、こちらは初習者向け文法の後半の内容を取り扱います。継続履修を推奨します。

＜より上位レベルの学習を希望する方へ＞

「諸地域言語」の枠で開放しているのは、上記の「ヒンディー語入門」のみです。より上位レベルの学習を進めていきたい場合は、専攻語代表教員に個別に相談して下さい。レベルに応じて履修方法を案内します。

ウルドゥー語

専攻言語としての履修

I. 1年次生

(1) 1年次春学期には以下の5コマを必ず履修してください。

- SUR261G1AX (萬宮 金3)
- SUR261G1BX (登利谷 木3)
- SUR261G1CX (萬宮 火2)
- SUR261C1AX (アーミル 水2)
- SUR261C1BX (アーミル 火3)

(2) 春学期にG1(3コマ), C1(2コマ)の全ての単位を取得したら、秋学期も同様に以下の5コマを必ず履修してください。

- SUR262G2AX (萬宮 金3)
- SUR262G2BX (登利谷 木3)
- SUR262G2CX (萬宮 火2)
- SUR262C2AX (アーミル 水2)
- SUR262C2BX (アーミル 火3)

II. 2年次生

(1) 2年次春学期には以下の5コマを履修してください。

- SUR261R1AX (登利谷 金3)
- SUR261R1BX (萬宮 木3)
- SUR261W1XX (萬宮 水2)
- SUR261C3AX (アーミル 月3)
- SUR261C3BX (アーミル 火2)

(2) 2年次秋学期には以下の5コマを履修してください。

- SUR262R2AX (登利谷 金3)
- SUR262R2BX (萬宮 木3)
- SUR262W2XX (萬宮 水2)
- SUR262C4AX (アーミル 月3)
- SUR262C4BX (アーミル 火2)

Ⅲ. 3年次以降

春、秋学期ともに曜日時限は共通で、以下の授業が開講されます。学部毎に決められている履修単位数に応じて、履修してください。開講学期が決められている授業に留意してください。

SUR261R3KR (村上 月2 : この授業は、春学期のみ開講)

SUR262R3KR (村上 水3 : この授業は、秋学期のみ開講)

SUR261C5XR (アーミル 水3 : この授業は、春学期のみ開講)

SUR262W4XR (アーミル 月2 : この授業は、秋学期のみ開講)

SUR262R3XX (登利谷 金1) : この授業は、秋学期のみ開講)

SUR261R3XX、SUR262W3XR (萬宮 木2)

SUR261R3PR, SUR262R3QR (露口 火5 : **メディア翻訳**)

SUR261C6XR, SUR262W3XR (アーミル 火1)

SUR261R3OR, SUR262R4OR (露口 月5)

SUR261G3KR (吉岡 金4 : 北部山岳地方の諸言語概説 : この授業は、春学期のみ開講)

SUR262G3KR (村山 木5 : ブラーフィー語 : この授業は、秋学期のみ開講)

(参考情報) 『リングア』の枠内で春学期木曜5限にパローチー語の授業(担当: 村山)が開講されます。専攻言語としての開講ではないので、履修時には注意してください。

諸地域言語としての履修

- (1) 諸地域言語として、初めてウルドゥー語を学ぶひとは、ウルドゥー語初級の以下の科目を履修してください。

SUR262G1BX (露口 火4 (秋学期))

- (2) ウルドゥー語中級を学ぶひとは、以下の科目を履修してください。その場合、**初級を少なくとも1コマ履修済みであることが中級の履修条件**になります。

SUR261G2BX (露口 火4 (春学期))

ベンガル語

専攻言語としての履修

1 年次には以下の授業を取ってください。すべて必修です。

春学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 ベンガル語 I-1	文法 a	東城	火・3
専攻言語 ベンガル語 I-2	文法 b	シェーク	木・3
専攻言語 ベンガル語 I-3	文法 c	奥田	水・2
専攻言語 ベンガル語 I-4	会話 1 a	奥田	水・3
専攻言語 ベンガル語 I-5	作文 1 a	シャオン	月・3

秋学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 ベンガル語 I-6	文法 d	東城	火・3
専攻言語 ベンガル語 I-7	講読基礎	シェーク	火・2
専攻言語 ベンガル語 I-8	会話 1 b	奥田	水・2
専攻言語 ベンガル語 I-9	作文 1 b	シャオン	木・3
専攻言語 ベンガル語 I-10	作文 1 c	奥田	金・3

文法 ABC を未取得の場合、上級科目の履修ができなくなります。これらを取得できなかった場合、次学期以降の再履修者用科目を取得する必要がありますが、再履修時のカリキュラムの組み方については必ず履修登録前に担当教員に相談してください。

2 年次には以下の授業を取ってください。すべて必修です。

春学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 ベンガル語 II-1	講読 2 a	シェーク	火・2
専攻言語 ベンガル語 II-2	会話 2 a	シャオン	木・3
専攻言語 ベンガル語 II-3	講読 2 b	東城	金・3
専攻言語 ベンガル語 II-4	講読 2 c	シャオン	水・2
専攻言語 ベンガル語 II-5	作文 2 a	奥田	火・3

2019 年度以降入学者用

秋学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 ベンガル語Ⅱ－6	講読2d	シェーク	木・3
専攻言語 ベンガル語Ⅱ－7	講読2e	シャオン	火・2
専攻言語 ベンガル語Ⅱ－8	作文2b	シャオン	月・3
専攻言語 ベンガル語Ⅱ－9	作文2b	奥田	火・3
専攻言語 ベンガル語Ⅱ－10	講読2f	東城	金・3

Ⅱ－1～Ⅱ－10を取るためには、Ⅰ－1～Ⅰ－10が履修済みであることが条件となります。場合によっては同時履修が可能但也有ありますが、その際は必ず履修登録前に担当教員に相談してください。

3年次以上では、次の授業を取ることができます。言語文化学部では、3、4年次で8コマの授業を取ることが義務付けられています。国際社会学部では義務はありませんが、できるだけ取ることが推奨されています。

春学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 ベンガル語Ⅲ－1	作文3a	シャオン	木・2
専攻言語 ベンガル語Ⅲ－2	講読3a	青山	火・1
専攻言語 ベンガル語Ⅲ－3	会話3a	奥田	金・2
専攻言語 ベンガル語Ⅲ－4	講読3b	シェーク	金・3

秋学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
専攻言語 ベンガル語Ⅲ－5	会話3b	奥田	金・1
専攻言語 ベンガル語Ⅲ－6	講読3c	青山	火・1
専攻言語 ベンガル語Ⅲ－7	講読3d	シェーク	月・2
専攻言語 ベンガル語Ⅲ－8	作文3b	シャオン	木・2

Ⅲ－1～8を取るためには、Ⅰ－1～Ⅰ－10およびⅡ－1～Ⅱ－10が履修済みであることが条件となります。場合によっては同時履修が可能但也有ありますが、その際は必ず履修登録前に担当教員に相談してください。

諸地域言語としての履修**春学期**

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
諸地域言語（ベンガル語 1）	ベンガル語 d	奥田	水・3

夏学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
諸地域言語（ベンガル語 1）	ベンガル語 a	奥田	集中

秋学期

科目名	授業題目名	教員名	曜日・時限
諸地域言語（ベンガル語 2）	ベンガル語 b	奥田	月・2
諸地域言語（ベンガル語 2）	ベンガル語 c	シャオン	水・3

初めてベンガル語を学ぶ人は、夏学期のベンガル語 a から始めて、a, b, c, d の順に学んでいってください。それぞれの授業の内容は、それ以前のを履修した人か、同程度のベンガル語力がある人を対象としています。

ペルシア語

カテゴリー G: 文法 W: 作文 C: 会話 R: 読解 H

専攻言語としての履修

I. 1 年次生

(1) 1 年次春学期には以下の 5 コマを必ず履修してください。

SPR261G1AX (吉枝)

SPR261G1BX (吉枝)

SPR261G1CX (佐々木)

SPR261C1AX (シャキビター)

SPR261C1BX (シャキビター)

(2) 春学期に G1 (3 コマ), C1 (2 コマ) の全ての単位を取得したら, 秋学期も同様に以下の 5 コマを必ず履修してください。

SPR262G2AX (吉枝)

SPR262G2BX (鈴木)

SPR262G2CX (佐々木)

SPR262C2AX (シャキビター)

SPR262C2BX (シャキビター)

G1・G2 (各 3 コマ), C1・C2 (各 2 コマ) は, セット履修となります。各セットのうち 1 コマでも単位未取得の場合は, 次学期以降に, 相当するカテゴリーのコマを再度セットとして履修する必要があります。その場合は, 時間割上, 他科目と競合しないよう, 予め充分注意してください。なお, カテゴリー C については, レベル 1 の授業は春学期のみの開講となることに留意してください。

II. 2 年次以降の学生

(1) カテゴリー G のレベル 1 の修得後は, 他カテゴリー R, W, H の履修をレベル 1 より始めることができます。

(2) カテゴリー G のレベル 1・2, およびカテゴリー C のレベル 1・2, カテゴリー R, W, H のレベル 1 の授業 (R1, W1, H1) は, 必ず履修してください。

(3) 原則として, 単位修得レベルより下のレベルの授業を再履修することはできません。ただし, R3, 4 はレベル 4 を修得後であっても反復履修は可能です。

諸地域言語としての履修

- (1) 初めてペルシア語を学ぶ人は、春学期開講の SPR261G1AX (吉枝), SPR261G1BX (吉枝), SPR261G1CX (佐々木), SPR261C1AX (シャキビ^o-), SPR261C1BX (シャキビ^o-) を履修することができます。なお, G1 (3 コマ), C1 (2 コマ) は原則としてセット履修となります。
- (2) (1) 以外の上位レベルクラスを受講希望の場合は, ペルシア語専攻教員と必ず事前に相談のうえ, 履修してください。

トルコ語

専攻言語としての履修

1 年次春学期には以下の 5 コマをすべて履修してください。

- トルコ語 I-1 STR261G1AX (佐藤久美子)
- トルコ語 I-2 STR261C1AX (ファトマ・トゥレ)
- トルコ語 I-3 STR261G1BX (佐藤久美子)
- トルコ語 I-4 STR261G1CX (菅原睦)
- トルコ語 I-5 STR261C1BX (ファトマ・トゥレ)

1 年次秋学期には以下の 5 コマをすべて履修してください。

- トルコ語 I-6 STR262G2XX (菅原睦)
- トルコ語 I-7 STR262C2XX (ファトマ・トゥレ)
- トルコ語 I-8 STR262W2XX (ファトマ・トゥレ)
- トルコ語 I-9 STR262R1AX (伊藤寛了)
- トルコ語 I-10 STR262R1BX (川本智史)

2 年次春学期には以下の 5 コマをすべて履修してください。

- トルコ語 II-1 STR261G3XX (菅原睦)
- トルコ語 II-3 STR261C3XX (ファトマ・トゥレ)
- トルコ語 II-4 STR261W3XX (ファトマ・トゥレ)
- トルコ語 II-5 STR261R2AX (川本智史)
- トルコ語 II-6 STR261R2BX (岩田和馬)

2 年次秋学期には以下の 5 コマをすべて履修してください。

- トルコ語 II-2 STR262G4XX (菅原睦)
- トルコ語 II-7 STR262C4XX (ファトマ・トゥレ)
- トルコ語 II-8 STR262W4XX (ファトマ・トゥレ)
- トルコ語 II-9 STR262R3AX (岩田和馬)
- トルコ語 II-10 STR262R3BX (川本智史)

注意 トルコ語に「配属」されている学生は「諸地域言語」として開講されているトルコ語の授業を履修できません

諸地域言語としての履修

はじめてトルコ語を学ぶ人は、まず春学期開講の
トルコ語文法 A STR261B1XX (菅原睦)
を履修してください。

トルコ語をすでに学んでいる受講生は、春学期・秋学期に開講される中・上級者用の授業を履修することができる場合がありますから、レベルに関して担当講師と相談の上、履修する授業を決定してください。